

Q14-1 基本高水のピーク流量の算出にあたり、令和2年7月洪水は棄却されているのでしょうか。

- 球磨川水系河川整備基本方針における基本高水のピーク流量については、「主要降雨波形を用いた雨量データによる確率からの検討」や「アンサンブル予測降雨波形の検討」、「既往洪水からの検討」の結果を総合的に判断し決定しています。
- このうち、「主要降雨波形を用いた雨量データによる確率からの検討」は、以下の流れで検討しています。
- 「主要降雨波形」については、昭和28年から令和2年までの球磨川流域において発生した洪水を基に選定しており、令和2年7月洪水の波形についても主要降雨波形に含まれています。
- 「雨量データによる確率」については、昭和28年から平成22年（気候変動の影響が含まれている可能性がある平成23年から令和2年は統計処理に含めない）の降雨量を用いて統計処理を行い、対象降雨の降雨量を設定しています。
- この2つを基に「主要降雨波形を用いた雨量データによる確率からの検討」を行い、令和2年7月洪水の波形を含む主要降雨波形を用いて対象降雨の降雨量により基準地点のピーク流量を算出した結果、人吉・横石地点共に昭和47年7月洪水の波形が最大となりました。
- この結果や「アンサンブル予測降雨波形の検討」、「既往洪水からの検討」の結果を総合的に判断し、球磨川における基本高水のピーク流量を決定しています。
- なお、球磨川水系河川整備計画に基づき、河川整備を実施することにより、令和2年7月豪雨と同規模の洪水が再度発生したとしても、人吉市等の区間における越水の防止、中流部における家屋の浸水防止など、流域における浸水被害を軽減できることを「令和3年度 第3回球磨川水系学識者懇談会」において示しています。